

ゆうかり放送委員会提供  
**ゆうかりに乾杯**  
 第123回放送の概要 (2017年7月22日放送)

**パーソナリティ**  
 たろう  
 (佃 由晃)  
 なか  
 (中嶋邦弘)  
 かりん  
 (妹尾優香)  
 あな  
 (岸本幸恵)



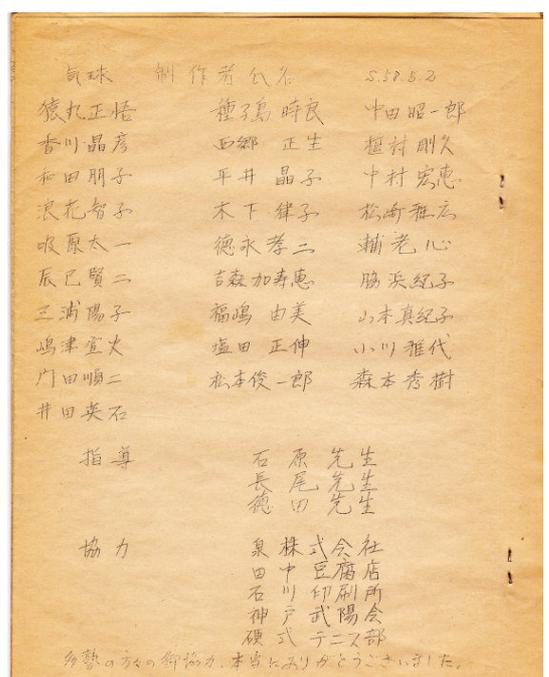
**ミキサー**  
 門ちゃん  
 (門田成延)  
  
**会計**  
 小山俊則  
  
**相談役**  
 わだかん  
 (和田幹司)

**1. ゲストコーナ (1) 種子島時良さん (72 陽会)**

(1) 文化祭実行委員長

兵庫高校 2 年生の時に、毎年 5 月開催の文化祭委員長に立候補し、激務に取り組んだ。1 月頃先生から模擬店を新クラスでやるよう話があった。従来兵庫高校の文化祭は面白いと言われてきて、それは模擬店が面白いからと思っており、2 年生の学年最後のイベントが模擬店ということが定着していた。4 月から始まる新クラスで行うことになると、準備期間が短くなる。先生からの話は、学校の四綱領「質素、剛健、自重、自治」の「自治」に踏み込まれたという想いから、学校と交渉した。宮地先生は、文化祭委員の他、各クラスにも出向き丁寧に話をしてくれた。4 月、5 月は校内放送が多くなり、その時「旧 2 年〇組の人は集まるように」というのもおかしいと思い、また 3 年生の新クラスの結束を目的にするのが大事と考え、交渉の結果新クラスで模擬店をすることになった。

出し物としては、4 年前にチャレンジしたことがあるとの話を聞いた熱気球を作ることにした。気球の設計に関しては、物理の石原先生の



指導を受けたいとお願いしたところ、先生は大変なので止めるようにと言われたが、嘆願書を書いてお願いし了解してもらった。

初めにビニール袋で試作球を作り、本球はOBの会社からヨット生地の提供を受け、ベニヤで型を作り、放課後半田コテで切り取り、次にミシンで縫い合わせた。縫う段階では女生徒も参加し、文化祭委員で始めた制作作業も、気づくと多くの生徒が参加し完成させることが出来た。気球は大きく膨らんだところで直径6mあった。熱気球で難しいところは揚げ方であった。



完成後、後夜祭の時間を少し削り熱気球を揚げた。最初ふわっと揚がりふわっと降りてきた。新聞社も来ていたので再度チャレンジすることにした。3階建て校舎の上まで達し、熱気球は成功した。その後卒業式の時に再度揚げることになり、高校生活最後になるので目いっぱい熱を封入した。2倍の長さのロープを取り付け、離すと急上昇し、ロープが切れ飛んで行ってしまった。道路や電線に落ちると大変な事になると気づき、急いで自転車で追いかけて行くと、会下山で落下してきて事故を起こさずに済んだ。



## (2) 山一証券就職

大学卒業後、1989年大納会での株価38915円がピークで、ピークになる前に就職活動をしており、1990年に山一証券に就職した。入社7年後の1997年11月に倒産(自主廃業)した。入社後は良くなることはなく、悪くなる一方であった。当時4大証券と言われたブランドを絶対守る、格付けが下がってはいけないという会社レベルの動きがあり、社内レベルでは妙手はなく、営業的には激がとんだりすることが多かった。当時3連休が3回続き、3連休ごとに北海道拓殖銀行、三洋証券、そして山一証券が倒産した。山一の株価は下がってきていたが、社員はまさかと思っていた。種子島さんは支店の営業マンであったが、危機的な雰囲気はなかった。当時組合の仕事をしており、冬のボーナス交渉で満額回答が出ていた。喜んで松山の町に繰り出し、翌朝5時に上司から電話で自主廃業らしいと言われた。社長の記者会見で、社員は悪くないとの発言が有名だが、これは社員が再就職で困らないよう組合からの要請したと、あ

る本には書かれている。

### (3) 現在の会社（リブドゥコーポレーション）

再就職先はリブドゥコーポレーションという大人の紙おむつの製造メーカー。就職2年後に社名変更があり（以前はトーヨー衛材）、現在の社名は、「リブ（Live）+ドゥ（Do）」で積極的に何でもやろう、積極的に生きて行こう、生きる力を応援しようを企業のコーポレートスローガンに掲げて名付けた。創業は1965年で、ベビー用、大人用の比率を変えて取り組んできたが、2000年前にベビー用から撤退し、大人用に絞る経営判断があった。2000年に介護保険が導入され、潮目の時期であったこと、ベビー用は少子化が進む事、店頭販売が主流であることから、ユニチャーム、花王、大王製紙などの大手が占めており、競争していくのは難しいとの判断があった。大人用は特養施設、病院など業務用の需要があり、品質が良く、品揃え、サイズ展開が多いので、この分野で勝負できると判断した。おむつ材料のパルプは輸入し、シート状の紙（ダンボールを厚くしたもの）を購入し、綿状に粉碎する。それを50mの装置に投入すると製品が出てくることになる。水分吸収のためポリマー樹脂を装着している。

大人用パンツの今後の課題は、80、90歳になっても元気なアクティブシニアがでてくるので、より薄く、より軽く、より穿きやすく、匂いがしない商品が求められる。現在は軽失禁に特化した商品も増えてきている。会社では社員全員おむつを穿いて排尿する研修がある。股にボールを挟んだような違和感がある。

## 2. ミュージック：「幻風景」アーティスト 岡田修

曲は、ワールドミュージックインターネット放送協会（WMI BA）より提供いただいた、津軽三味線演奏家 岡田修さんの「幻風景」です。

## 3. ゲストコーナー（2）

### (4) 種子島家の家系図

「種子島」という名字は、日本では珍しく400軒程である。鹿児島島の南約数十kmの種子島と深い関係があり、島を治めていたのが種子島氏である。種子島さんはその分家になる。人口は3万人、島の面積は444平方kmである。日本で10番目の大きさの島である。産業は農業で縄文時代の遺跡が出土している。2毛作で非常に暮らしやすい。サツマイモを日本に初めて植えたのが19代種子島久基と言われている。最近では安納芋が有名。サトウキビもある。種子島と言えば1543年の鉄砲伝来と最近では宇宙センターが有名。宇宙に一番近い島と言われている。



種子島家（本家）は今29代続いている。初代の種子島信基は平清盛の孫を北条時政が種子島に流罪にして助けたことから始まった。種子島家の家譜に業績が残されている。

## 種子島家 家譜

### 初代 種子島信基

—信式2—信真3—信時4—時基5—時充6—頼時7—清時8—時長9—幡時10  
—時氏11—忠時12—恵時13—時堯14（鉄砲伝来）—時次15—久時16（島津藩）  
—忠時17—久時18—久基19（サツマイモ）—久達20—久芳21—久照22—久道23  
—久珍24—久尚25—時丸26—守時27—時望28—時邦29

栖林神社（せいりんじんしゃ）という種子島久基さんを祀っている神社があり、その神社の横の御拝塔（おはとう）墓地に初代から28代までの全てのお墓がある。種子島さんの家系は今から7代前頃に分家したといわれているが、祖母は本家の方であり、本家とも親しくさせてもらっている。種子島さんは島を4~5回訪問したことがある。島には鉄砲館があり、国産品第1号とポルトガル来たといわれる鉄砲が展示されている。国産の鉄砲が生まれたのは種子島が初めてである。種子島は琉球他南方の国々との貿易の拠点になっており、漢文の出来る人がいるので、島の南の門倉岬に流れ着いた異人（中国人）と砂の上で筆談により、目的と何をしているかを知り、早馬で時堯（ときたか）さんに知らせた。種子島は砂鉄が入っている黒い砂浜で、鍛冶職人が多く、種子鋏（たねばさみ）も有名で鉄砲を作る技術があった。



最近種子島を訪問したのは、本家の叔母が、篤姫の叔母の松寿院が種子島に嫁いできて、港を開いたり多くの事業を行った事を本「松寿院 種子島の女殿様」にまとめたことがきっかけ。昨年8月の鉄砲まつりの時に「種子島を名乗る会」を開催した。全国から20人程集まった。参加者は各人が持っている家系図を持ち寄った。

### 14代 種子島時堯公

種子島家の命名はルールがあり、当主は「時」がついている。分家の場合は本家の許可をもらって長男だけ「時」を含む命名をしている。過去島津藩に入った時期は「久」が使われている。種子島家は800年、29代続いているので子孫に伝えていく責任がある。



昨年8月は、教育の一環で息子を種子島に連れて行った。

名刺交換などした時は必ずルーツを聞かれる。ファミレスなどで名前を呼ばれるのが嫌という体験は一族皆同じで、そのような場所では母親の旧姓を使っている。種子島さんの父親も叔父も兵庫高校卒で、息子には時誠と命名し、日頃誠実に生きるよう話をしている。



鉄砲伝来（門倉岬）



鉄砲まつり

#### （5）経営品質協議会認定セルフアセッサー

種子島さんは会社では経営企画部に所属し、経営品質協議会認定セルフアセッサーという肩書を持っている。企業が「いい会社になり続けましょう」を実現するために、日本経営品質賞アセスメント基準書において基本的理念、重要な考え方、経営上のフレームワークなどの評価尺度を提供している。社内において経営理念に向かってどのような取り組みが行われているかを評価し、レベルアップするための提言などをセルフアセッサーが行っている。

日本経営品質賞は1980年代のレーガン政権時代に、日本やドイツが強かった理由を徹底的に調査し、エッセンスをまとめたものを、米国国家経営品質賞（マルコム・ポルドリッチ賞：商務長官の名前）として制定したものを、日本には1995年に輸入され、日本に適用し易く見直されたものである。セルフアセッサーの養成研修は生産性本部で行われている。

会社に最も必要なものは、変化に対応し続けることである。そのためには一時的に外部の力を借りるのではなく、社員自らがそのような力をつけていくことが大事で、それを検討するためのフレームワークがアセスメント基準書に提示されている。

山一証券は問題がどこにあったかについて、メーカーの場合は製品に対する品質の改善、顧客のニーズを満足する改善、サービス向上などは自社だけで出来る。証券会社の場合は相場の影響が大きく、当時は護送船団方式で、規制当局の方針に左右されるので、自立した経営が難しかった。

サービスを提供する企業が日本経営品質賞を受賞した例は、車のディーラー、ホテルなどが熱心に取り組んでいる。受賞を目指して取り組むことで、企業が提供している価値に従業員が気づいて、やりがいを持って仕事出来るようになることで「いい会社になり続ける」ことが出来るようになる。最近受賞した焼き肉の会社、ワンダイニングは、時間の家族だんらんの時間を提供するための手段として、焼肉を提供

している事をアルバイトまで浸透させた。その結果皆が生き生きと仕事ができるようになり、サービス向上につながった。スーパーホテル、介護施設なども取り組んでいる。伍魚福も熱心に取り組んでいる。

#### (6) 兵庫高校武陽会 110 周年の準備

来年、母校は創立 110 周年を迎え、記念式典・祝賀会が以下の通り開催されます。

(開催日) 2018 年 5 月 5 日(祝・土)

(式典) ポートピアホール

(祝賀会) ポートピアホテル「大輪田の間」

(記念講演) 金山武雄 (51 陽会、カーネギーメロン大学教授：ロボット工学の世界的権威)

(関連イベント)

- ・ ゆうかり芸術祭 2018 年 3 月 25 日 会場：ポートピアホール
- ・ ゆうかりフェス (仮称) 2018 年 5 月 27 日 会場：新開地 神戸AVC,まちづくりスクエア
- ・ 武陽スポーツ祭 2018 年 3 月 24 日 会場：兵庫高校

祝賀会係を担当する種子島さんは、懐かしい映像、写真を集め、編集して当日上映する予定です。また、玉三郎コンテストに出たことのある人など、世代を超えた集合写真を企画しています。

[110kinen@gmail.com](mailto:110kinen@gmail.com) ^映像、写真をお送りください。

#### 4. こぼれた話こぼれなかった話：震災・学校支援チーム (EARTH) の活動

県の教育委員会は、阪神淡路大震災の教訓を基に、命の尊さや助け合いの心、ボランティア精神など、「共生」の心を育む“兵庫の防災教育”を進めています。その取り組みの一つとして、17年前から県内公立学校教職員及びスクールカウンセラーらで構成する震災・学校支援チーム (EARTH) を結成して、東日本大震災など相次ぐ国内外の災害被災地にチーム員を派遣し、支援活動を行ってきている。

昨年4月の熊本地震、10月の鳥取県中部地震においても、避難所運営や児童生徒たちの心のケアの支援等にあたるとともに、前年末に改訂した「EARTHハンドブック」などの資料を提供しました。また、県立学校の児童生徒たちによる街頭募金や被災地支援の取組みがされました。県教育委員会では、取組で得た教訓、成果を生かし、“兵庫の防災教育”のさらなる充実を図ります。

具体的には、被災地からの要請を受けて、①避難所の自主運営へのアドバイス、②学校再開に向けた各種支援、③児童生徒たちの心のケアについて教職員へその手法を体験してもらいながら伝えてきました。その後も、学校での心のケア研修を継続したり、被災地で開催されるフォーラムなどに、講師として参加したり、震災体験や教訓の共有を進めました。

10月の鳥取県中部地震では、熊本県と一緒にコラボして支援を行いました。また、「EARTHハンドブック」はついこの間、最新版に改訂しました。

#### 5. 地域瓦版

##### ①防災士の榎崎奈美さんからのお知らせ

8月6日(日)防災ゲーム「クロスロードゲーム」の体験会が、元町4丁目のまちづくり会館で13時30分～16時30分に開催されます。クロスロードゲームは、阪神大震災後、対応に当たった行政職員

の直面したジレンマ、問題点、苦悩などの聞きとり調査を5年間行い、京都大学矢守先生がゲーム形式に考案されたものです。当初職員の為に行われる予定であったが、効果的であったので、職員がボランティアで研究会を立ち上げ、各地で開催するようになった。最初は公的機関の職員から始め、最近は小学校から大学まで開催されている。クロスロードゲームは人生の分岐点で、いざとなったらどうするか、右か左か止まるかの判断を、即行うものである。災害時の判断力をどうつけるか、災害はいつも形、大きさを覚えてやってくるので答えはない。その都度臨機応変に対応する必要がある。

②8月5日(土) 19時30分~20時30分、第47回みなと神戸海上花火大会が開催されます。神戸開港150年記念のため1万5千発の花火が打ち上げられます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>